

平成 19 年 9 月 21 日

「美しい日本の^(すい)粋」の最終取りまとめについて

～ 日本の“らしさ”“ならでは”は一人ひとりの内面や日常の行動にある ～

「美しい国づくり」プロジェクトでは、公募「美しい日本の粋～伝えたい私たちの美しさ～」として、平成 19 年 4 月 20 日～6 月 22 日の間、なくしてはいけない日本“らしさ”や日本“ならでは”のものを広く募集しました。幅広い年代、地域の方々から 3,400 件を超える多くのご応募を頂き、このたび「美しい日本の^(すい)粋」の最終結果を取りまとめましたので、お知らせします（考察の概要は【別紙 1】参照）。

応募内容：思いやりや武士道などの「**気質・感性**」に関する意見と、自然と調和した生活や四季折々の年中行事などの「**生活様式**」に関する意見で約半数を占めた。このほか、「**文化芸術・伝統**」等に関する意見など多岐にわたる分野に関する応募があった（【別紙 2】参照）ほか、応募理由からは、共有しうる**価値**（【別紙 3】参照）や**問題意識・提言**（【別紙 4・5】参照）が読み取れた。

考察要旨： 日本“らしさ”や“ならでは”は主に、日本固有の風土と生活を通し培われた『**気質・感性**』や『**生活様式**』など、一人ひとりの内面や日常の行動の中にある。

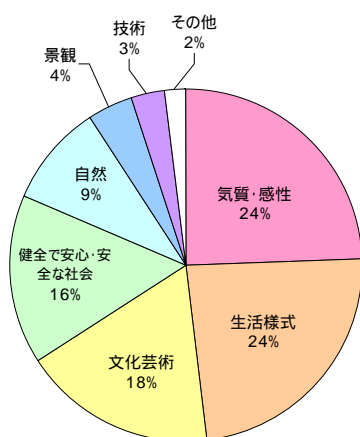
特に、「思いやり」の気持ちは、『生活様式』から『技術』に至るまで、様々な“日本らしさ、ならでは”のあらわれである姿勢、行動、形式の重要な要素となっていると考えられる。

50代を中心に、「癒し、和み、安らぎ、ゆとり」を、『自然・景観』、『文化芸術』、『生活様式』にも見出す傾向がある。多くの人は、日本ならではの自然や景観、そこから派生した「和」の文化や生活様式に、いわば心の原点を見出していると考えられる。

未来を担う 10代は、日常生活で身近に接する“日本的なもの”に対する誇りを持ち、「和」を“美しくカッコイイ”ものとしてなんらかのかたちで関わろうとする兆しを感じられる。同時に、これをなくしたくないという気持ちがうかがえる。

応募状況： 応募件数 3,447 件。男女別（男性 63%・女性 36%）、年代別（主に 30 代以降の幅広い年代から応募）、地域別（海外在住者も含め全国の幅広い地域から応募）など、応募状況は【別紙 6】参照。

【図】「美しい日本の粋」応募内容の内訳（応募総数 3,447 件）



【本件に関わるお問い合わせ先】

内閣官房 「美しい国づくり」推進室

Tel : 03-5472-1350

「美しい国づくり」プロジェクト 公式ホームページ

<http://www.kantei.go.jp/be-nippon/>

「美しい日本の粹(すい)」の考察の概要

「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」は、一人ひとりの内面や日常の行動にあることを再認識

【要旨】

日本人の多くは、「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」は、おもに日本固有の風土と生活を通してつちかわれた『気質・感性』、毎日の生活や行動のなかでできあがってきた『生活様式』など、一人ひとりの内面(性格や気持ち、心など)や日常の行動の中にあると考えている。

なかでも「思いやり」の気持ちは、『生活様式』から『景観』、『文化芸術』、『健全で安心・安全な社会』、『技術』に至るまで幅広く「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」の理由として挙がっており、様々な“日本らしさ、ならでは”のあらわれである姿勢、行動、形式の重要な要素となっていると考えられる。

また、50代を中心に、「癒し、和み、安らぎ、ゆとり」を、『自然・景観』、『文化芸術』、『生活様式』にも見出す傾向がある。多くの人々は、日本ならではの自然や景観、そこから派生した「和」の文化や生活様式に、いわば心の原点を見出していると考えられる。

未来を担う10代は、日常生活で身近に接する昔ながらの日本、日本的なものに対する誇りを持ち、<和>を美しくカッコイイものとして何らかのかたちでかかわろうとする兆(きざ)しが感じられる。同時に、これらをなくしたくない、という気持ちが窺(うかが)える。

3,447件の応募全体において、四季のある自然、里山やまち並み景観、文化芸術、社会ルールや法制度、職人や先端技術といった、目に見える、などはっきりあらわれている「もの」、「こと」があがる一方で、『気質・感性』と『生活様式』にあたるものの合計が48%を占めている。

そこで浮かびあがってきたのは、「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」の多くが、一人ひとりの日常の生活の中にあるということ。

思いやり、恥を知る、人と和するといった『気質・感性』と、挨拶、家族の団欒(だんらん)、四季折々の年中行事などの『生活様式』に、『文化芸術』にある日常の衣、食、住や、『自然・景観』におけるまち並み、農山村の風景、の理由にもみられる気質や感性、行動をあわせると、応募者の多くは、「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」を、一人ひとりの内面や普段はあまり意識することのない日常の行動にこそあると考えていることが見出せる。

そして、“日本らしさ、ならでは”の多くには、「思いやり」が影響していることが垣間(かいま)見えた。

『気質・感性』では「思いやり」、「高潔(こうけつ)・清貧(せいひん)」、『生活様式』では「ことば」、「家族の絆・近所の交流」が多くあがっており、そこには自然や相手への感謝、配慮、共生、絆(きずな)が共通する理由として見られる。

なかでも「思いやり」に分類したおかげさま、親切、おもてなしの心、感謝の心、心配りは、『生活様式』(特に、ことばや家族・近所との絆(きずな)にみられる)から『景観』、『文化芸術』、『健全で安心・安全な社会』、『技術』に至るまで幅広く「美しい日本の粹(すい)」「日本らしさ、ならでは」の理由として挙がっている。これらのことから「思いやり」が、今日に至る様々な“日本らしさ、ならでは”のあらわれである姿勢、行動、形式の重要な要素

となっていると考えられる。

それは、日本固有の風土のもと、稲作・農耕文化を通じた自然との共生や、近隣との助け合いの精神などを通じて育まれたものと考えられる。

また、50代を中心に、「癒(いや)し、和み、安らぎ、ゆとり」を、四季のある自然や水田のある農山村風景のみならず、和食、和服、和室、唱歌など『文化芸術』や家族の団欒(だんらん)、挨拶といった『生活様式』にも見出す傾向がある。つまり、日本人の多くは、日本ならではの自然や景観、そこから派生した「和」の文化や生活様式に、いわば心の原点を見出していると考えられる。

一方で、『気質・感性』において、現在の社会問題や事件を知った上で、「他人への配慮を失っている」、「大人自身の規範(きはん)の欠如(けつじょ)」、「公德心、地域、親子の教育の見直し」、「恥に対する意識の希薄化」といった問題意識や危機意識が多くあがっており、美しくなくなってきたもの、失われつつある美しさという観点から、将来に向けた見つけ直しの必要性が浮かびあがってきた。

各年齢層の傾向の中で、特徴的な傾向を示したのが10代。

他の年齢層と比べて『文化芸術』の割合が34%と高く、かつ他の年齢層が「祭り」「童謡」「唱歌」や「漆器」「歌舞伎」「茶道や華道」「神社やお寺」など伝統や芸能、芸術的なものをあげているのとは異なり、衣・食・住にわたる和の文化を「美しい日本の粋(すい)」「日本らしさ、ならでは」として挙げている。しかも、他の年齢層と比べて「日本にしかない」、「美しい」又は「健康的」という理由で、「着物」、「和食」、「和菓子」、「和室」、「庭園」といった日常生活の中にあるものの割合が高い。

また、『生活様式』における「ことば」に関する意見の割合も、ほかの年齢層と比較して多い。日常使っている「ありがとう」、「おかげさま」、「いただきます」、「ごちそうさま」など感謝をこめた挨拶や、話す相手を配慮する丁寧な言い回しを美しいと感じている。

これらから、日常生活で身近に接する昔ながらの日本、日本的なものに対する誇りが感じられる一方、これがなくなりつつあることへの心配から「なくしてほしくない」「残したい」「伝えたい」という声も多々ある。

こうしたことから和を美しくカッコイイものとして何らかのかたちでかわろうとする兆(きざ)しが感じられる。

一方で、『気質・感性』における「人と和する気質」に関する意見の割合も多いが、相互扶助の精神というよりも、「自分が不都合なことがあってもそっとしておく」、「喧嘩しても、苦しいだけだし、仲良くしていると楽しいから」等、できるだけ人との摩擦(まさつ)を避けたい又は人間関係をうまく保ちたい、といった意識が見られる点が特徴である。

世界に信頼され、尊敬され、愛される、リーダーシップのある国

文化、伝統、自然、歴史を大切にす国

自由な社会を基本とし、
規律を知る、凛とした国

未来に向かって成長する
エネルギーを持ち続ける国

自然

美味しい水 美しい空 空気
太陽 月 風 湖
山岳 森林 竹林 清流
川 滝 白砂青松
魚 かえる 虫 蛭
植物 トンボ 稲 桜
ブナ原生林 ジュゴン
富士山 瀬戸内海
阿蘇 立山連峰

景観

城・城下町 社寺
庭園 兼六園
白川郷 蔵島
椎葉村 祖谷地方
日本家屋 屋根瓦
集落・里山 菜の花畑
棚田 水田風景
雪景色 電線地中化
清潔なまち並み
風情あるまち並み

文化芸術

漆器 陶磁器 絹織物 和紙 刀 鍼灸 盆栽
寺社仏閣 和風建築 折り紙 和服 学生服
風呂敷 風鈴 相撲 弓道 剣道 軟式テニス
和食 和菓子 日本茶 日本酒 箸 漫画・アニメ
落語 民謡 演歌 祭り 農耕・稲作文化
日本文学 昔話 童謡・唱歌 昔遊び(メンコ)
茶道 華道 香道 書道 和歌・俳句 講談
歌舞伎 浄瑠璃 舞踊 雅楽 能楽
皇室 元号 祝日 日の丸

健全で安心・安全な社会

治安が良い 安全な水
銃のない社会 防疫体制
清潔な環境 教育制度
平和憲法 環境政策
政治制度 雇用制度
年金・保険制度 法治国家
バリアフリー 経済制度
安心して暮らせる 長寿
時間に正確な電車

技術

環境技術 省エネルギー技術
農業技術 システム開発技術
インフラ整備技術
防災技術 屋上緑化
新幹線 大橋 トンネル
ナノテク ロボット 自動車
植林 砂防 発酵技術

成果・発現

自然と調和した日常生活

縁側、襖、障子、畳、簾、蚊帳
井戸、湧水 温泉・風呂
旬の食材 庭、池 植木鉢
打ち水 閑静 風鈴の音
虫の音 小川のせせらぎ

四季折々の年中行事、生活習慣

正月 書き初め 初詣 年賀状 お年玉
成人式 節分豆まき 雛祭り お彼岸 入学式
花見 端午の節句 七夕 海水浴 潮干狩り
花火 縁日 お盆 運動会 月見 収穫祭
紅葉狩り 除夜の鐘 卒業式 てるてる坊主

ことば

美しい日本語 方言 挨拶
正しい日本語 音の美しさ
謙譲語・敬語 多様な表現
歴史的仮名遣い 思いやり
4つの文字を持つ ある言葉

マナー

公共マナー
交通マナー
江戸しぐさ
傘かしげ
お年寄りに席を譲る

生活様式

もったいない精神

ものを大切に
ゴミの出し
にくい社会
節約

家族の絆、近所の交流

お宮参り 七五三 頑固な父親 良妻賢母
祖父母との交流 祖父母の手 父母の手作り
家族の団楽 お弁当 茶の間 囲炉裏を囲む
結納 ふるさと 親孝行 お裾分け 育児
世話焼きおばさん 向こう三軒両隣

信仰

仏教 神道 禅
先祖供養 年忌供養
お墓、仏壇
お墓参り お遍路
八百万の神々

立ち居振る舞い

礼節 品位 お辞儀
礼儀作法 躰 合掌
食事作法 正座
大和撫子 箸の持ち方
揃えた履物

地域を支える

町内会活動 消防団活動
PTA活動 子供会
町衆の心意気 ボランティア
コミュニティー

(職人技)

町工場技術 匠の技術
宮大工技術 様々な手道具
文化としての技術 地道な姿勢
技術の継承 道を究める力
師弟愛 チームワーク
職人を尊重し大事にする風土
プロフェッショナル意識
製品や品質へのこだわり
新しいものを生み出す探求心
現場主義

気質・感性

自然への畏敬

自然と調和する心
自然を愛する心
自然崇拜
妖怪

感性

豊かな感受性
もののあわれ
わびさび

人と和する気質

和を以て尊しとなす
温厚、柔和
相互扶助の精神
平和を愛する心

寛容の精神

やさしさ
いわずもがな
阿吽の呼吸
以心伝心

思いやり

心配り 忘己利他
親切 惻隱の情
察する心 間をとる
おもてなしの心
感謝の心 おかげさま

謙虚・謙讓

奥ゆかしさ
譲り合い
慎み深い
中庸
謙遜
分相應

規律正しさ

正義 高いモラル
凛 良心 公德心

敬う心

長幼の序

義理人情

恩返し

公平・公正

フェア
平等観
人種身分で態度を変えない

高潔・清貧

武士道
いさぎよさ
恥を知る
清廉潔白
弱きを助け強きをくじく
武士は食わねど高楊枝

勤勉・誠実

まじめ
几帳面
正直
一生懸命
努力
裏切らない

繊細さ

丁寧さ
器用さ
細やかさ

風土(地理的条件)

四季の移り変わり 海 地震等の災害が多い 多雨 火山国 島国(海に囲まれている) 肥沃な土壌 農耕・稲作

世界に信頼され、尊敬され、愛される、リーダーシップのある国

文化、伝統、自然、歴史を大切にする国

自由な社会を基本とし、規律を知る、凜とした国

未来に向かって成長するエネルギーを持ち続ける国

自然

自然は、癒し、ゆとり、安らぎを提供し、心を和ませ、心身に潤いを与えてくれる。自然が、豊かな感性、気質等を育んだ。豊かで美しい自然は日本が世界に誇れるものである。日本独自の自然は、伝統や豊かな精神文化を育んだ。文学、音楽、絵画、衣食住の全てが、四季ある自然の恩恵を受けている。地域を象徴する自然は、地域の信仰を集め、地域の誇りの象徴となっている。おいしい空気、水等は、快適に暮らすために必要である。

景観

農村漁村の美しい景観は、日本人の心を癒し、情緒ある人間を形成する原動力である。農村風景は、自然の美、先祖から受け継いだ努力の美を表している。棚田は、勤勉さ、几帳面さ、丁寧さの象徴である。水田は、日本の美しい文化と信仰の原点であり生活の基盤である。寺社は建築、儀式を今に保持し、「歴史」の具現である。日常生活の舞台である商店、歴史的・伝統的建物等は、歴史や生活文化そのものである。美しい瓦屋根が連なる家並みは日本特有で誇りである。自然と調和した風景、伝統的な建物、まち並みは、日本人の美意識を取り戻す。

文化芸術

日本の伝統技術で作られた身の回りの小物・道具は、安らぎを覚え、世代を問わず愛される。日本家屋は、勤勉さと礼儀正しさを涵養し、和の心を育み、環境に優しい省エネ住宅である。着物は、ものを大切にすることを育み、世代を超えて身につける日本人の知恵の凝縮である。制服文化は、勤勉さ、慎ましやかな心を表し、自らを律し、凜とした個人を体現するものである。伝統芸芸等は、精神面の鍛錬に重要である。和食は、その美しさや健康食としての機能だけでなく、その背景の家族の絆が見出せる。祭りは、自然・祖先への感謝、畏敬の念等を表し、地域の絆を育む役割が大きい。農耕・稲作文化は、四季折々の自然・風土に根づいた日本文化の基盤で日本人の感性を培った。詩歌・童謡等は、四季の美しい景色や親子等の深い愛情が凝縮し、心が洗われ安らぎを覚える。華道は、水を大切に思う心、生命に対する尊さを思う心、茶道は、人への感謝の心を育てる。日本文化は、礼儀、マナーなどの基本的な美意識と自然科学への理解を形成するものである。

健全で安心・安全な社会

衣食住全てにおいて安全に対する意識の高さが、日本らしく、世界からの信頼を築いている。時間の正確さ、規律正しさが、日本人の美德である。安全・安心・安定して暮らせることが、世界に誇る日本の良さで、日本人の相互信頼関係の証である。安定した生活が、子供たちをきちんとしつけ、教育できるゆとりを生む。全国どこでもいつでも安心して水が飲める国は世界的に見ても例がない。高齢者・身障者を思う気持ちは、優しさ、たくましさ、敬う心に支えられている。自分のやりたい仕事自分の努力次第で自由にできる社会であるためには、安心して働け、公平感を持ち、日本で生まれて良かったと感じられる制度が必要である。

技術

自動車・鉄道・新幹線技術やロボット技術、環境技術、植林技術・防災技術等は、未来に向かって成長する技術で、世界に誇ることができる。省エネを実現する先端技術により、地球温暖化防止に貢献できる。伝統工芸の匠の技から先端技術まで、日本らしさを表す気質・感性や技術力の高さを根源にしている。日本には現場主義の土壌があり、その技術で製品化・実用化されている。伝統技術を大切にしつつ、先端技術を取入れ、調和する特性がある。日本人の製品、品質へのこだわり、美意識は、世界的にも希少である。匠の技は、祖先の伝えた大切な遺産であり、素晴らしいしさを感じ、心が落ち着き、日本人の誇りを再認識する。

自然と調和した日常生活

日本人は自然の恩恵に感謝してきた。自然と調和した生活が、心の豊かさや人への思いやりも育てる。

四季折々の年中行事、生活習慣

年中行事や生活習慣を通じて、日本人の感謝の心や相互扶助の精神等につながっている。年中行事への参加や生活習慣の継承を通じて、地域や親子・世代間の絆を育んだ。

ことば

きちんとした挨拶、おかげさまでといった言葉は、日本人らしい相手への思いやりや敬意、気配りの意識を表し、人と人との関係の和につながる。感謝の気持ちなど人の心を多彩に表現することができる。

マナー

相手への思いやり、助け合いが根底にあり、これによりお互いが心にゆとりをもつことができ、平和な社会につながっていく。

職人技

日本人は、ものづくり日本の原点となる職人を尊敬し、技術を高く評価してきたことから、職人に誇りが生まれ、誠実で創意工夫された作品ができた。使い手が、生活の中で実際に使うことで、ぬくもりや温かさを感じ、感性が豊かになって、作り手に共感を持つことになる。町工場の職人や現場で日々改善・改良に努める技術者・生産者のひたむきな姿勢が、大切である。

地域を支える

無償の精神が根底にあり、町内会を通じた地域での助け合い、消防団、子供会、町衆の心意気などが地域社会の安心・安全を支えてきた。特に消防団等の無償の地域安全活動は海外にはあまり例がなく、思いやり等気質の具体的な行動例と考えられる。

もったいない精神

無駄を見直し、再生利用の考え方を生み、世界に先駆けその技術が目覚ましく発達した。ものを大切にすることが、生命の尊厳、大切さを諭すことになる。

家族の絆、近所の交流

家族・近所との絆が大切であり、家族の団欒、三世代の交流、親と子のスキンシップ、近所との交流を通して、感謝、思いやり、気配りを育む。町衆の心意気等が、地域社会で文化を支えた。

先祖を大切に
する気風の継承

自然や先祖への畏敬と感謝の心は、人への思いやりや年長者への敬意につながる。

立ち居振る舞い

日本ならではの美しさの表現であり、日本人としての品格、誇りの源である。礼儀正しさ、礼節は、海外でも通用するという自信が感じられる。

自然への畏敬

感性

人と和する気質

思いやり

謙虚・謙讓

規律正しさ

敬う心

義理人情

公平・公正

高潔・清貧

勤勉・誠実

繊細さ

文化、伝統、宗教、人間関係等における和を尊ぶ意識。

相手を受け入れ、尊重し、認め合う姿勢。

地震が起きた際の冷静かつ整然とした行動。

国際協力等、人が見ていないところでも地道にやりとげる姿勢。

匠の職人や農業に従事する人々等の黙々と良いものを創ろうとする姿勢。

成果・発現

生活様式

気質・感性

世界に信頼され、尊敬され、愛される、リーダーシップのある国

文化、伝統、自然、歴史を大切にす国

自由な社会を基本とし、
規律を知る、凛とした国

未来に向かって成長する
エネルギーを持ち続ける国

自然の保護

日本古来の自然、生物、名花、草花等の野生種を未来に残すべきである。豊かな水を守るため、山、森林の保護、地下水の復活が重要である。四季を彩る自然を保護する国民的な運動、緑化運動を推進すべきである（国花、県花、市町村花、植樹祭等）。大人や子供たちが、森林にもっと身近に接し、尊さを学ぶべきである。自然を復興し、環境大国として各国のモデルとなるべきである。山に木を植え、その土地の本来の植生に還元すべきである。富士山の清掃活動をして、世界遺産になる努力をすべきである。蛍が日本全域で見られるように環境を改善すべきである。太陽の恵みを有効活用し、化石燃料に依存した生活を見直すべきである。

景観の保護

農山村風景は、日本人の原風景で、心を癒すものとして残すべきである。防災、食料供給等のために、棚田、千枚田を保存すべきである。日本人が護り続けた心と智慧が表れた田園風景を維持すべきである。神社、仏閣等、荘厳な景観を保存すべきである。伝統的なまち並み、古来からの建築物を守り伝えていくべきである。自宅周辺の身近な風景で個性ある素敵なまちづくりをすべきである。電線、看板の乱列のないまち並みに変えるべきである。まちのごみが人の心を荒み、社会を荒む。

文化芸術の継承発展

世界に誇る伝統工芸を生活に取り入れ大切にす。日本人の勤勉と礼儀正しさを涵養し、和の心を育み、環境に優しい和風建築を再認識すべきである。着物を学校教育で取り入れるなどで広げるとともに、その技術を受け継ぎ世界に発信すべきである。日本の伝統・文化である制服を着用することで、連帯意識の育成や規律を学ぶべきである。食事作法、筆記等を幼児に躰けるべきである。日本の伝統食文化を食育に取り込むべきである。文化継承、地域の繋がりを強化、青少年の教育、道徳心の育成等のために祭りを大切にすべきである。日本ならではの家族・地域が係わり、代々伝えてきた古来からの伝統芸能を継承すべきである。詩歌、詠歌は日本の美の再発見と日本語の洗練を促す。古典を味読すれば心が豊かになる。文化の祖父母から孫への隔世伝承がなくなった。古来からの「日本文化」を必修科目扱いにすべきである。手と頭を使う手紙、そろばん、書道を見直すべきである。昔遊び（めんこ等）を現代の子供達に踏襲すべきである。日本のアニメーションには世界から絶賛される技術と芸術性の高さがあり、発展させるべきである。

健全で安心・安全な社会の実現

きれいな水道水は、日本らしさの重要な要素であり、その技術と思想は世界で希有で、地球環境の保全に寄与すべきである。災害大国である日本であらかじめ対策をする社会であるべきである。昔のように子供が安心して外で遊べる社会であるべきである。高齢者、身障者が暮らしやすいまちづくりを進め、社会参加を促進すべきである。清潔な国であるべきで、日本人全員で定期的な大掃除をするという国民一人ひとりの心意気が大事である。落とし物が戻る国であり続けるよう、努力すべきである。国力を高めるため、良い教育を行い、人を育成することに重点を置くべきである。世界に誇る家畜疾病防疫体制を維持すべきである。

技術の革新

自動車・鉄道・新幹線技術やロボット技術、環境技術など日本の得意とする技術で、地球環境問題などグローバルな課題で日本らしい貢献をすべきである。先端技術を国際協力の目玉とすべきである。技術移転は、技術を文化として認識し、相手国との接点を見つけて行うべきである。日常生活用品が、工業製品や海外からの類似品により危機にある。伝統芸能や伝統行事の道具、工法等の技は、他に応用可能で守り伝えるべきである。細かな心使いと精巧な技を持つ町工場の技術を大切にすべきである。誠実で創意工夫された作品ができるよう、職人を尊敬し技能を高く評価すべきである。世界一の部品加工技術の源である日本人の努力、忍耐力がなくなっている。自然科学に重点を置く学校教育に改善すべきである。

自然と調和した日常生活の実現

地域の自然の触れ合い、地産地消の持続的な営みを大切にすべきである。

四季折々の年中行事、生活習慣の継承

年中行事や生活習慣の継承が失われつつあり、特に地域や家族の絆が希薄である。

美しく、正しいことばの奨励

美しいことばは、取り戻すべきものであり、現在の社会状況に対する問題解決の手段となりうる。カタカナ、英文字が氾濫している。

マナーの向上

公共の場で、自己中心的な行動が目立っている。失われてはいないが、維持、再認識すべきものである。

職人技の継承

日本らしさを表す感性に裏付けられた技と担う人材を守り、伝え、磨き上げ、育成すべきである。職人を尊重し、大事にする風土を醸成し、維持すべきである。技が、日々の暮らしの中で使われる機会が増え、その価値が評価されることが重要である。「使い手の感性」に働きかけ、共感を得ていく作り手の技術が、より一層重視されるべきである。

もったいない精神の普及

環境保全、省資源に有効。ものを大切にし、食べ物を無駄にしない気持ちが、薄れつつある。

家族・近所の温かい交流の実現

家庭・社会とも人間関係が、希薄になりつつある。祖父母の存在が生活の知恵や母親の支援につながり、社会の問題解決の鍵である。

先祖を大切にする気風の継承

先祖への畏敬を欠き、年長者を尊敬しなくなった。

立ち居振る舞いを美しくすることを奨励

失われてしまったものが多く取り戻すべきである。正座、お辞儀、躰等を通して日本人としての再認識を促すべきである。

地域を支える活動の活発化

地域の交流・絆につながるもので、維持・強化すべきものである。

“日本らしさ、ならでは”の多くにあらわれている気質・感性（思いやり、高潔・清貧、人と和する気質等）の再認識・再生

他人への配慮や思いやりを失っている。

大人自身のしつけ不足で、規範となるべき大人がいない。

公徳心、道徳、親子、地域について教育の見直しが必要である。

恥に対する意識の希薄化。

自己中心、成果主義、競争主義、拝金主義等の弊害。

成果・発現

生活様式

気質・感性

世界に信頼され、尊敬され、愛される、リーダーシップのある国

押し出しの強さで人をまとめる欧米型とは異なり、「引き」の文化を押し出し「遠慮」のリーダーシップをとるべきである。

日本の優れた伝統、文化に裏打ちされた日本人の強みを更に磨きをかけ育てあげ、世界から尊敬される「日本ブランド」を築く。

日本は、奥ゆかしさを美德とするから、国際社会では時に説明不足で損をするが、良い部分をもっと積極的にアピールすべきである。

国際社会で、普遍性に基づく人類的な見地から明確な自己主張をしていくことが必要である。

核廃絶など世界からおかしいと言われる考えでも貫くことが逆に尊敬される。

文化、伝統、自然、歴史を大切にする国

自由な社会を基本とし、規律を知る、凛とした国

未来に向かって成長するエネルギーを持ち続ける国

自然の保護

豊かな森と清らかな水は、それ自体が世界に誇るべきもので、それを維持する環境技術は、将来、日本が世界に貢献すべき分野であり大切である。日本は異なる生態系の宝庫で、地域ごとに異なる魅力があり、その多様性を各地域が認識し合うことが大切である。自然と開発が矛盾しないように、知恵を出して技術を活用して調和させるべきである。環境は、努力して守り磨いてきたものである。

景観の保護

世界と比べて日本の景観は汚いが、人の心を荒ませるので、美しくすることで、物心ともに美しい日本にしたい。私たちが住んで、暮らしている中で美観を保つには、美しさを感じる心が大切で美しい国をつくるのは人である。深層心理にある美しい国とは、水田、棚田の風景で稲穂の満ちた国である。景観は、努力して守り磨いてきたものである。

文化芸術の継承発展

歴史に対する基礎知識、教育を身につけることは大事で、特に日本史を身につける必要がある。世界の古典や名作が日本語に翻訳されており、隠れた「世界共通語」としての長所を強調すべきである。芸能全般に関し、子供たちに鑑賞する習慣を作ることが、美しいものを感じる心、大切にすることを育む。食の文化は、世界に誇る自信の持てるものである。自らの文化的価値を掘り起こし、地域の独自性に基づくふるさと発見競争を促し、奨励すべきである。生活に美しさ、芸術性がある生活文化を表彰すべきである。日本人はどこかで和歌、俳句にかかわり、「日本人は全員詩人」は海外発信に非常にインパクトがある。祭りは、自然観、季節感、伝統美から、地域で継承されて、歴史や知恵、精神性、様式を見ることができる。源氏物語は、日本文化の源泉の一つで、誕生一千年は世界に発信して日本の美を再発見できる機会である。

健全で安心・安全な社会の実現

命を大切にする国、例えば病気の方を救ったり、銃を使った犯罪を撲滅することが、大きな課題である。長寿とは、命を大切にするという価値を表す。銃を持っているのはおかしいと考える社会は、日本独自で世界に誇れるものである。日本人にとって水と安全はタダであると思っている感覚は、基本原則としては素晴らしい、自慢できるものである。

技術の革新

日本の強みは、熱心、勤勉でチームワークの良い国民性、ものづくりに長けた能力で、日本の厳格なユーザーに磨かれ世界に誇れる製品を生み出した。環境、省エネ分野の技術は、「技術外交」として世界に貢献している。虚業が流行しているが、基本的に実業、ものをつくる国であるべきである。最先端技術と老舗企業の技術が合わされており、こうしたものづくりの優れた「現場力」を掘り起こすべきである。科学技術は、便利さには不可欠であるが、当たり前であるため気づかないので、その重要性を再確認する必要がある。

自然と調和した日常生活の実現

日本にもともとあった畳、廊下、障子、襖のあった生活を思い出し、子供たちに知ってほしい。虫の音が分かるのは日本人にしかない繊細さと独特の感性である。

四季折々の年中行事、生活習慣の継承

芸能の源ともいえる年中行事、様々な儀式などに触れることが少ない。七夕企画のように、今後も年中行事を取り上げて、盛り上げるのがよい。

美しく、正しいことばの奨励

教育の中で敬語を教えることにより、人を敬う心、謙譲の心が育まれる。日本らしい繊細な事象を表す日本人の基本となる言葉が、揺らいでいる。

地域を支える活動の活性化

いろいろなステークホルダーを大切にする企業というものの考え方は、自信を持って世界に誇れるものである。個人・企業レベルによるボランティア活動を通じて、世界に貢献する。自発的なボランティア活動が、子供たちに自然に伝わるようになると良い。

職人技の継承

工業分野において蓄積された匠の技があるから、調和・制御のとれたハイブリッドエンジンの仕組みができた。特殊技術は、中小企業が世界に誇れるもので、実用に徹してこそ美しく、芸術的である。職人は、自主独立という形で自分の領域を確定、守ろうとする気持ち、自負心が重要である。地道な技術者に光を当て、讃える表彰制度を検討すべきである。

もったいない精神の普及

風呂敷、手ぬぐいなどはシンプルで簡素が良いとする考え、自然を敬う心があり、環境保全の観点から世界に発信すべきである。

家族・近所の温かい交流の実現

世代間対話で教え、築き合うことが必要である。地域の物語、説話等を祖父母が子供に聞かせる。家庭・近所で子供の社会性の育成を行うことが重要である。

立ち居振る舞いを美しくすることを奨励

目を見て人に話す等、本来の意思疎通のあり方を忘れがちである。国際的な振る舞いの美しさは、普遍性に基づく明確な自己主張で、築く必要がある。

“日本らしさ、ならでは”の多くにあらわれている気質・感性（思いやり、高潔・清貧、人と和する気質等）の再認識・再生

日本人の感性は、日本の風土から培われ四季の変化に富んだ自然との共生により叙情性、情緒性が育まれた。

多様性を許容し他者と共存する寛容性は、現代の国際社会の諸問題にも有益な示唆を与える。

和の精神、義理人情、謙譲等の精神は、日本特有のメンタリティーである。

現代日本の「心の荒廃」という問題の中で、「環境の危機」が叫ばれている。美しい国とは、深く内面的な心が美しい国である。環境や景観を守るものは、日本人の心である。

日本人の寛容性、包容性が、海外からの先進文化を取り入れつつ、融合させ、日本古来の伝統を守り続けてきた。

日本では、自分が一歩引く遠慮の美德が和をもたらした。「引き」の文化は世界に誇れるものである。

「世界最小、最軽量」を開発する技術は、小さな庭に宇宙を感じるといった日本人の精神性がある。

戦後、日本人は、自信が持てず、日本独自のものが忘れられてきた。

成果・発現

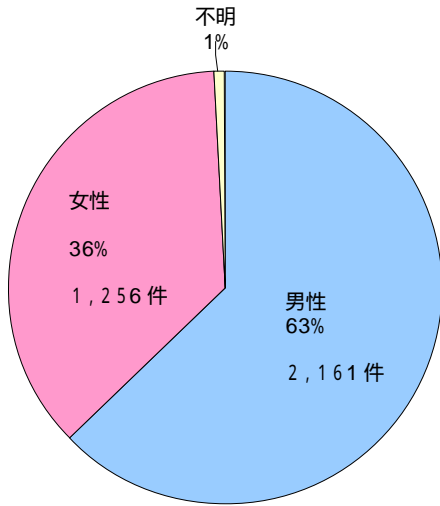
生活様式

気質・感性

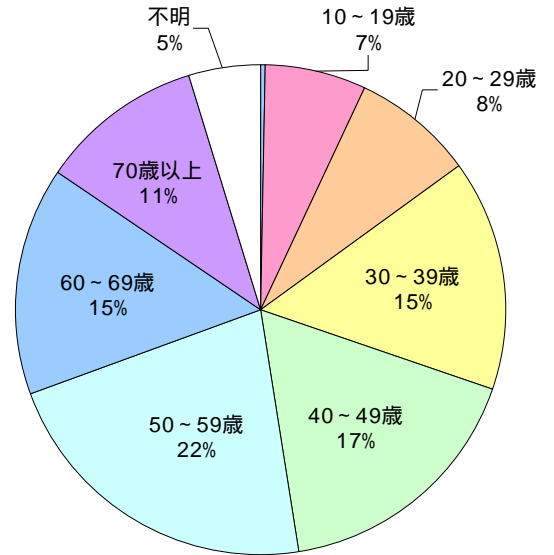
「美しい日本の粹」応募状況

(すい)

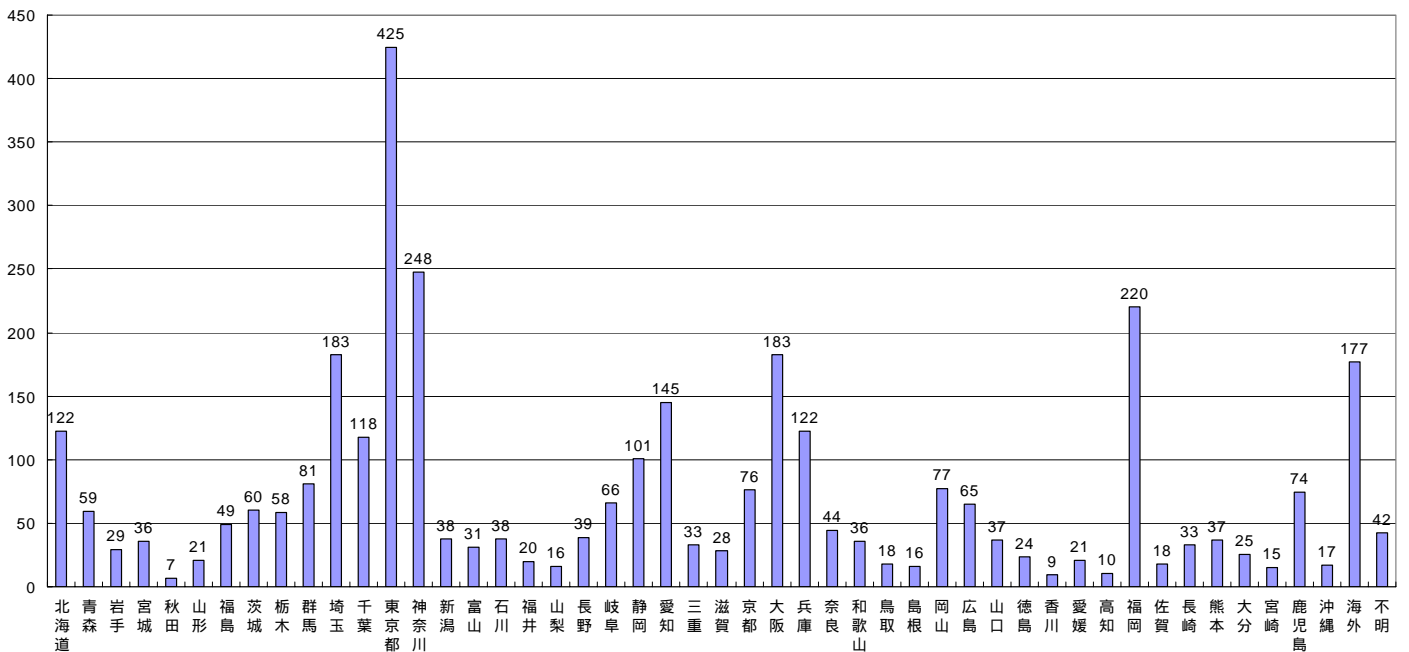
男女別応募状況



年代別応募状況

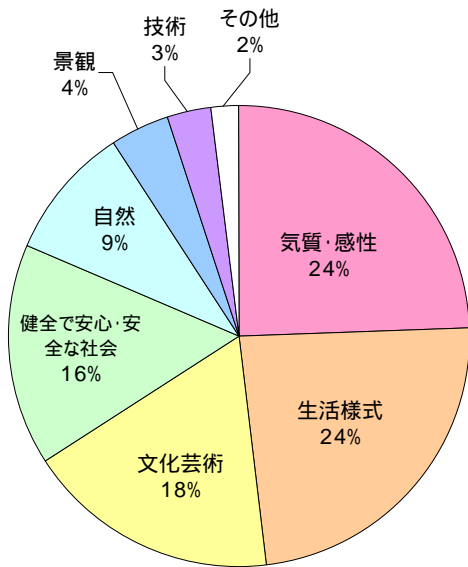


地域別応募状況



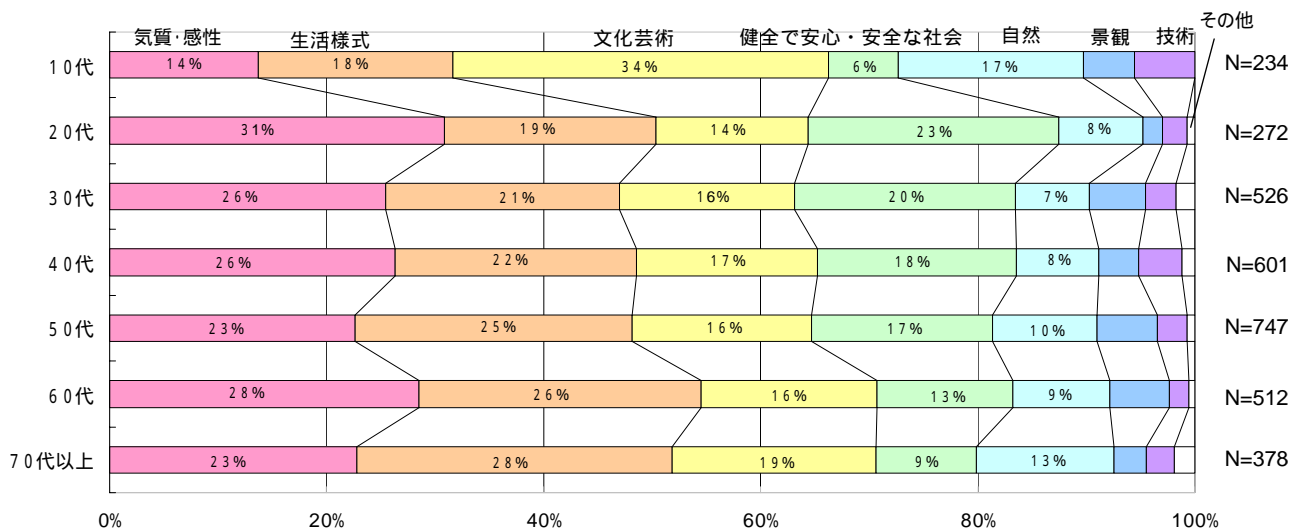
「粹」の応募内容 (3, 4 4 7 件)

(すい)

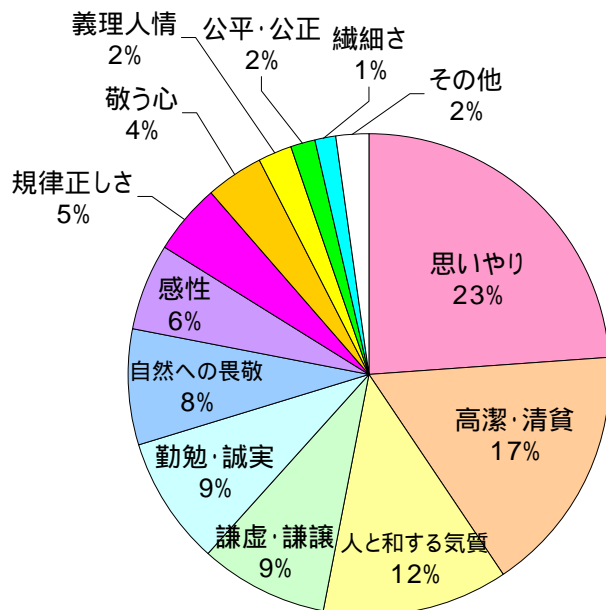


「粹」の応募内容 (3, 4 4 7 件) の年齢別割合

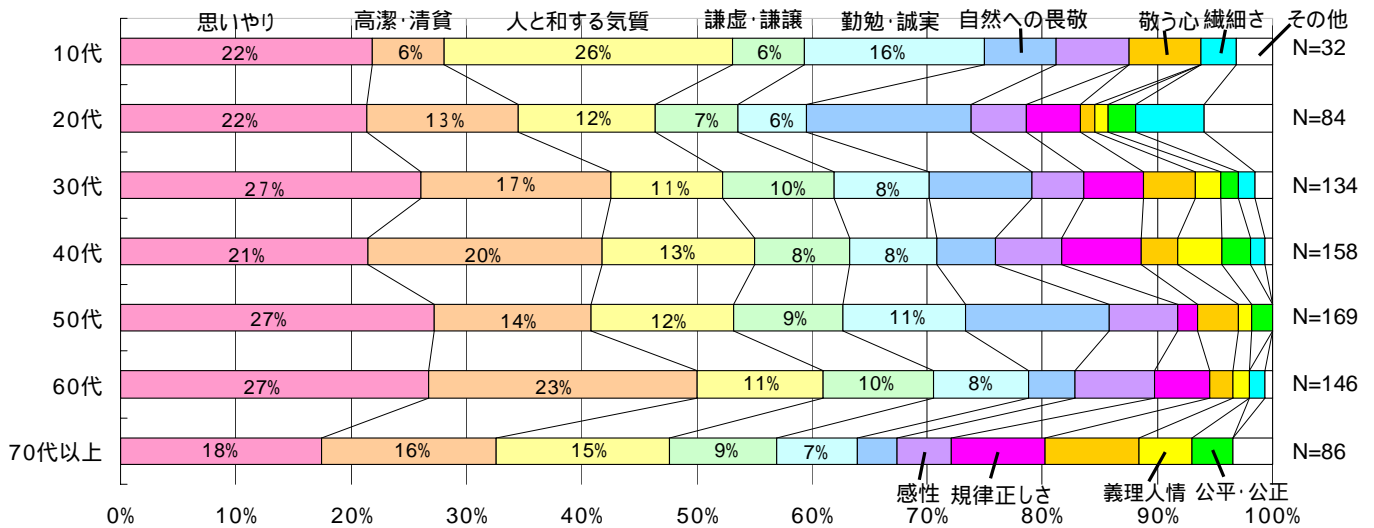
(すい)



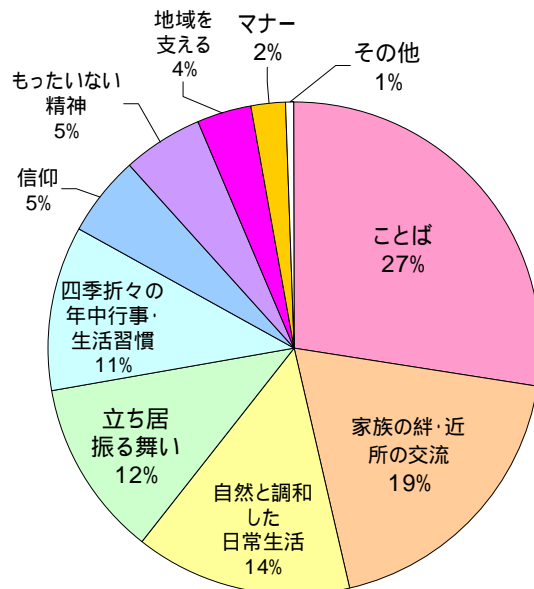
「気質・感性」(8 4 2 件) の応募内容



「気質・感性」(842件) の年齢別割合



「生活様式」(814件) の応募内容



「生活様式」(814件) の年齢別割合

